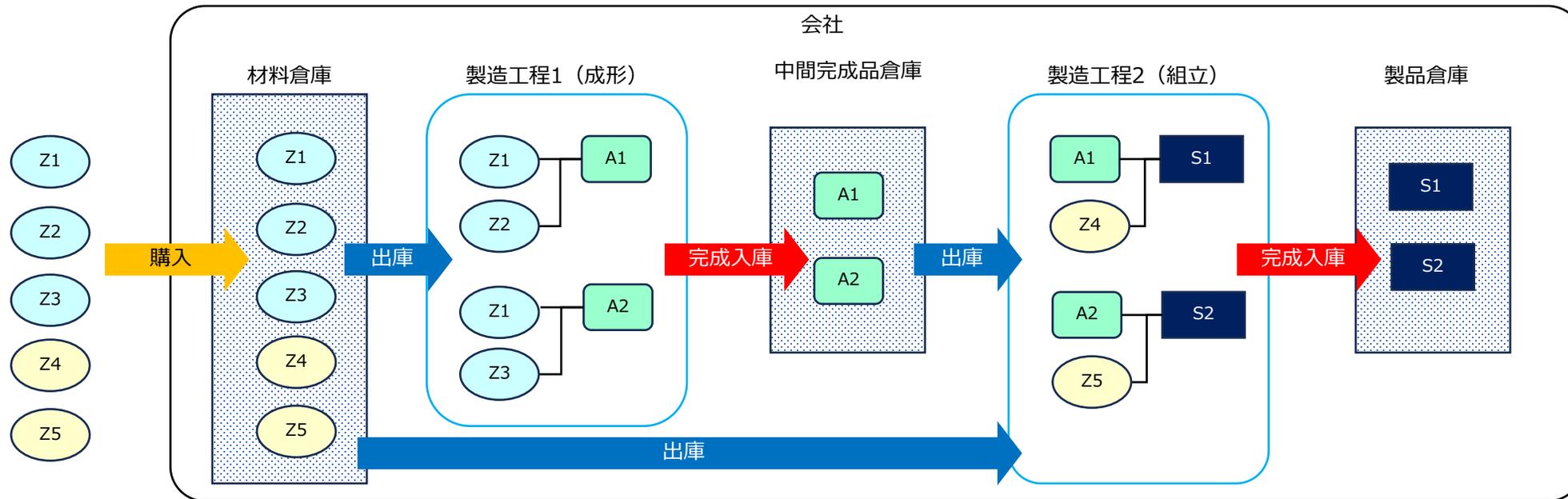
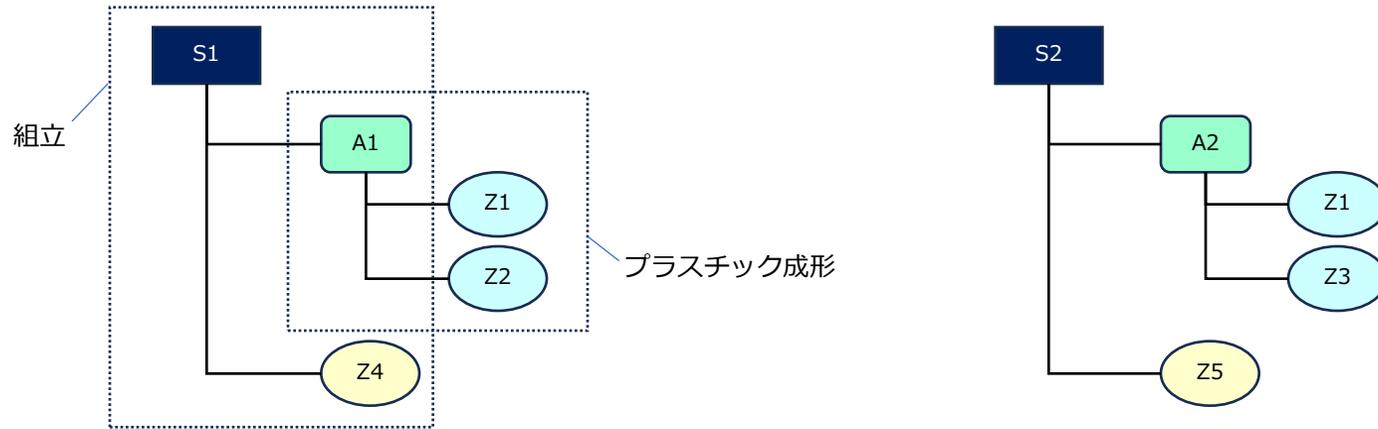
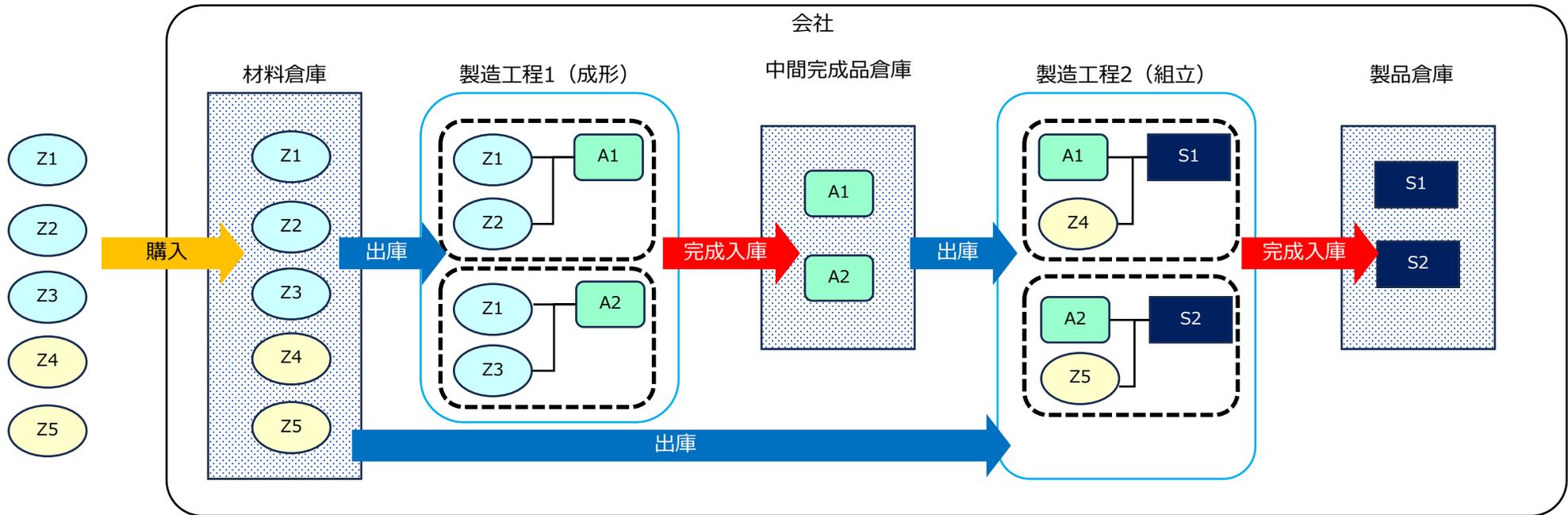


総合原価計算 (組の設定)



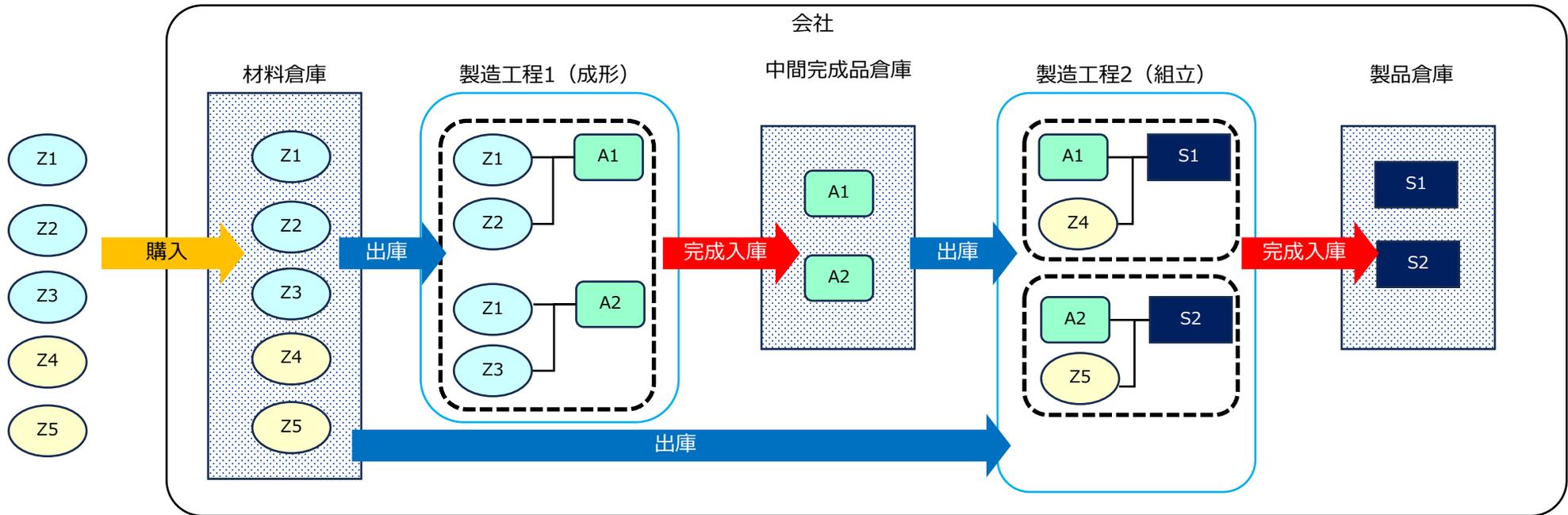


組の設定① (組と製造品目が1 : 1)



- ・ 製造工程1 (成形) 、製造工程2 (組立) とともに、製造品目 (製造するモノ) 毎に、組を設定する。→上記図の 
- ・ 組毎に原価計算表 (総合原価計算) を作成する。
- ・ 各組に対する材料の出庫、工数の計上が必要になる。
(材料の出庫は、生産管理システムで見做し出庫データを作成するケースがある)

組の設定② (組と製造品目が1:n) 1/2



- ・ 製造工程1 (成形) は、工程でひとつの組を設定する。
- ・ 製造工程2 (組立) は、製造品目 (製造するモノ) 毎に、組を設定する。
- ・ 製造工程1 (成形) は、総合原価計算により、A1、A2トータル原価 (実際出来高) が算出される。
- ・ この場合、A1、A2トータル原価をA1、A2に分解 (按分) する必要がある。→次ページへ

組の設定② (組と製造品目が1:n) 2/2

締年月：xxxx年xx月 組番号：B-1 名称：ブロー

	月初仕掛品	月末仕掛品	投入高	実際出来高
材料費			10,000	10,000
加工費			2,000	2,000
合計			12,000	12,000

- ・この場合は、「ブロー」を組として原価計算を行う。
- ・「ブロー」では、複数の中間完成品の完成入庫が行われている。
- ・「ブロー」の実際出来高を、品目別に按分する。

品目	完成数	基準材料費	按分基準値	按分率	材料費	加工費	合計
A1	5	1,000	5,000	0.45	4,545	1,200	5,745
A2	3	2,000	6,000	0.55	5,455	800	6,255
合計					10,000	2,000	12,000

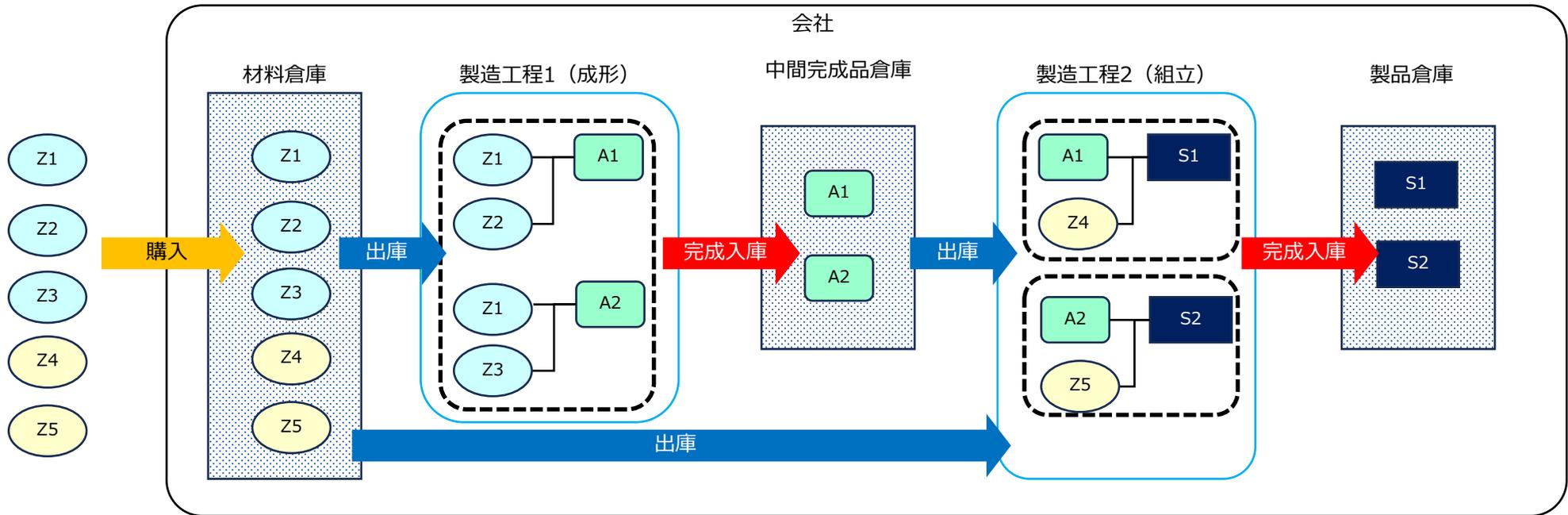
材料費：あらかじめ品目毎に設定した
基準材料費×完成数を基準に按分

加工費：工数の計上を品目別に行い工数×レートで算出
(按分計算対象外)

※材料費、加工費とも完成数で按分する方法も考えられる

- ・在庫品台帳の「入庫金額」は、品目別の製造原価を計上する。

組の設定② (組と製造品目が1:n) 完成入庫を標準原価で行う場合 1/2



- ・ 製造工程1 (成形) は、工程でひとつの組を設定する。
- ・ この場合、A1、A2の完成入庫を標準原価で行う方法がある。
組 (この場合は成形) で原価差額 (材料費差異、能率差異など) が発生する。→次ページへ
- ・ この方法をとる場合、製造工程2 (組立) についても、完成入庫を標準原価で行うことになる。

組の設定② (組と製造品目が1:n) 完成入庫を標準原価で行う場合 2/2

締年月: xxxx年xx月 組番号: B-1 名称: プロー

	月初仕掛品	月末仕掛品	投入高	実際出来高	標準出来高	差額
材料費			10,000	10,000	8,600	-1,400
加工費			2,000	2,000	2,200	200
合計			12,000	12,000	10,800	-1,200

- ・ 実際原価計算は、組で行う。(この場合はプロー)
- ・ A1、A2に標準原価を設定し、品目別の標準原価×完成数の合計値を標準出来高とする。
- ・ 標準出来高－実際出来高で差額を算出する。

品目	完成数	標準原価			標準原価×完成数		
		材料費	加工費	合計	材料費	加工費	合計
A1	5	1,000	200	1,200	5,000	1,000	6,000
A2	3	1,200	400	1,600	3,600	1,200	4,800
合計					8,600	2,200	10,800

この場合の差額は、組毎に算出される
(品目別には算出されない)

- ・ 在庫品台帳の「入庫金額」は、標準原価×完成数を計上する。

【本件に関するお問い合わせは下記まで】

ソフトウェア株式会社

〒464-0075 名古屋市千種区内山三丁目18番10号 千種ステーションビル802号室

Tel : 052-439-6758 Fax : 052-439-6759